

# 東京都の保育施設等におけるアレルギー疾患の状況 食物アレルギーを中心に

出典	日本小児アレルギー学会誌 2017;31(2):124-134 ( <a href="http://search.jamas.or.jp/link/ui/2017287046/">http://search.jamas.or.jp/link/ui/2017287046/</a> )
著者	鈴木薫 他
調査地域	東京都
調査時期	2014年9月
調査対象	全保育施設（学童保育も含む）と幼稚園（0歳～小学生）
依頼数	7,405施設
有効回答数 または回収率	72.2% (5,348施設、403,614人)
診断方法	施設職員の申告（文部科学省の学校保健統計の診断根拠（健康診断、健康調査票、保護者からの申し出）に準じる）
有症率	6.3%、アナフィラキシーは0.6%
調査概要	東京都の保育施設等におけるアレルギー疾患の状況を調査した論文。2009年に東京都が実施した施設調査に比べ、有症率は増加していた。1歳児が10.4%と最も高く、5歳児まで年齢とともに減少していた。FA症状の発症を経験した施設は19.0%で、うち初発（過去にFA既往なし）が64.9%だった。